2023 年度大学院入試説明会　資料

都市防災・災害復興研究室（市古研究室）

都市計画学をベースに，自然災害被害を最小化し，被害が生じた際も回復力をもった（resilient な）建築・都市空間の計画論構築を目指します．災害リスクをどう評価し，都市・建築の計画・設計に活かしたらよいでしょうか，被災地に求められる専門家支援とは何でしょうか．

1. 研究室の研究テーマ：被災地復興 + 大都市事前防災

研究室の研究・実践は，①三陸沿岸を中心に巨大自然災害からの住まい・集落・くらしの再建，②東京を中心とする事前対策としての都市防災・事前復興まちづくりの 2 つの切り口で構成しています．

(1) 大規模災害からの住まい・集落・くらしの再建デザイン研究

研究室では 2012 年 2 月から【気仙沼階上】において，防災集団移転事業による住まい再建支援をすすめています．生活と住まいを人々はどう取りもどしていくのか，参与観察型で調査を進めています．また【雄勝町水浜】，【東松島宮戸】【大船渡市三陸町】といった漁村集落における再建実態調査を進めています．

東日本大震災に留まらず，熊本地震（2016 年），長野県北部地震 (2011 年)，伊豆大島台風 26 号 (2013 年)，海外としては，スマトラ島 (2004 年 ,2009 年)，ネパール（2015 年ゴルカ地震）も研究室のフィールドです．

博論（2022）平木繁：自然災害時の避難所生活環境と多組織間連携による避難所運営プログラムに関する研究
修論（2021）野村知穂：津波被災からの集落営み再建と低平地マスタープラン - 大船渡市を対象として -
修論（2018）高橋拓宙：活火山を有する離島における個人および地域としての災害時対処行動に関する考察
修論（2018）岩本真利奈：2016 年熊本地震被災地における再建空間遷移と避難生活・集落再建過程に関する研究―西原村中山間集落を対象に―
修論（2017）宮武紗良：過疎高齢化集落における被災者の再建意思に着目した住まい再建プロセスに関する研究
修論（2016）高橋進吾：防災集団移転事業による住民協議型住まい再建プロセスと移転住宅地デザインワークに関する研究－東日本大震災気仙沼市階上地区におけるアクションリサーチ－

(2) 東京を中心とした事前復興・都市防災研究

「防災」という切り口で，地域に入り「高齢者の住まい」や「子育て環境」また「空き家リノベーション」といった日常の地域活動への示唆にもつながる「まちづくり」の方法論について Project ベースで研究を展開しています．研究室では八王子市，豊島区，港区，大田区にて，自治体･地域と共同で「事前復興まちづくり」をすすめています．回復力のあるコミュニティを事前につくる，これからの防災対策の大事な柱に関する研究です．延焼リスクや避難リスクなど市街地防災性能に関する基礎的研究も受け入れ可能です．

修論（2023）北沢俊悟：地震災害時の避難・滞留行動を想定した駅地下空間評価に関する研究 ―池袋駅地下空間を対象として―
卒論（2023）城野健太朗：都市周辺部の拠点における企業・産業と連携した 地域防災活動に関する研究 - 港区青山地区防災協議会に着目して -
卒論（2022）眞武勇人：都心再開発地区とその周辺コミュニティにおける地域防災の取り組みに関する研究
修論（2021）宮野真希：郊外丘陵一団地開発地における地域防災活動及び共助の関係性実態について - 八王子市 K 地区を事例として -
修論（2020）竹内雄大：市街地再開発事業によって創出される災害時一時退避可能空間に関する研究 - 東京都港区を対象に -
修論（2019）小倉華子：保育園・幼稚園等における災害対応力評価に関する研究 - 東京都町田市を対象として -

2. 研究室の活動や学生生活について

東京の事前復興まちづくり研究は，研究室社会貢献活動として，学生のみなさんも企画運営側として関わります．まちづくりに関わる専門家の真剣勝負の仕事ぶりを学ぶ場でもあります．

都立大学ボランティアセンターとも「災害市民ボランティア」という視点から有機的連携を図っています．

日常的な研究室の活動としては，学生の研究テーマを討議する「研究室会議（ゼミ）」を 2 週間に 1 回，同じく研究に限らずメンバー間でコミュニケーションする「Tea Party」を 2 週間おきに開催しています．

※防災・復興まちづくりの現場で，研究室の仲間と一緒に，自分を成長させてみませんか？

3. 研究室の方針

(1) 被災地調査では常に相手の立場に立った上で，建築学･都市計画学の発想で知見を明らかにし，現場に戻します．
(2) 現場調査はチームワークで！（学生それぞれ研究テーマを持ちますが，調査は研究室合同で実施します）
(3) 迷ったら現場で考える．

4. 問い合わせ等

・時間を定めての開催はしていませんが，**個別に説明と相談に応じます．気軽にメールで連絡をどうぞ．**

E-mail: **ichiko-taro@tmu.ac.jp**，5 階 553 室，内線 4272，市古研究 HP：http://ichiko-lab.org/wp

5．研究室での調査研究活動から

■熊本地震 集落被災調査（2019 年 4 月）

・西原村と御船町を主対象に，熊本地震からの集落再建調査を継続しています．

■球磨川水害復興調査（2023 年 2 月，八代市坂本町）

・2020 年球磨川水害からの集落再建の営みについて，坂本みちの駅で，球磨川を目の前にして説明いただきました．

■津波集落再建調査（2022 年 3 月，大船渡市，気仙沼市）

・2022 年 3 月は中心市街地再建を果たしたキャッセン大船渡，また気仙沼震災遺構・伝承館で語り部の方から話を伺いました．

■気仙沼集落と住まいの再建ワークショップ（2015 年）

・気仙沼市長磯浜の防集協議会からの相談で，新しい住宅団地の風景と生活環境ワークショップを企画運営しました．

■伊豆大島一中での防災環境学習支援（2022 年 7 月）

・東京島嶼部は研究室の長年のフィールドです．離島には火山，津波，台風など様々な自然災害との共生の「くらし」があります．写真は大島一中での防災環境授業の様子です．研究室のアウトリーチ活動として実施しました．

■豊島区長崎地区震災復興まちづくり訓練（2018 年 1 月）

・区役所および専門家と共同で，密集市街地の事前復興まちづくりに取り組んでいます．写真は地区公園のシャドウプラン・ワークショップの結果です．

・また 2020 年度は港区麻布地区，2021 年度は港区青山地区で展開し，2022 年度も引き続き研究調査を続けています．